

2017 5/2 東日本大震災復興支援ウォークソン

趣意書

京都暁星高等学校生徒会

2011年3月11日から6年が過ぎました。あらためてこの大災害で生命を落とされた方々の永遠の安息をお祈り申し上げます。

被災地全般における復興の歩みはゆっくりと前進していますが、原子力発電所の事故の影響が残る福島県内では依然として将来を見通すことが難しい状況が続いています。震災から7年目を迎え、現在は避難指示解除に向けた動きが進み、仮設住宅から恒久住宅への生活の場の移転が本格化する一方、長期の避難生活を余儀なくされている方々の心身のケアや被災者の方々の暮らしの再建を後押ししていくことが重要となっており、被災者の生活再建のステージに応じた切れ目のない支援を行っていくことが必要だと言われています。被災地の皆様の「忘れないで」という言葉に応え、これからも「ともに歩み」、祈り続ける暁星高校でありたいと思います。

京都暁星高等学校生徒会は、昨年、福島県南相馬市の仮設住宅でサロンを運営されている「真こころ」と原町カトリック教会の敷地内にある「カトリックさゆり幼稚園」に運営活動費として支援金を送りました。今年もささやかですが努力を伴う募金の形として、「忘れない3.11」をテーマに、復興支援ウォークソンを計画し、復興に向けて支援を募りたいと思います。歩く距離は網野教会堂をスタート地点とし、丹後にある5つの教会堂・礼拝堂を祈りつつ巡礼する36kmです。

いただいたスポンサー支援金は、カリタス南相馬から紹介いただいた福島県南相馬市小高区にある「ぷらっとほーむおだか」に、住民交流スペースの運営活動費として補助する予定です。南相馬市小高区は福島第一原子力発電所から20km圏内に位置し、事故直後から全住民約1万3000人が避難生活を余儀なくされました。避難指示解除準備区域になった際は、昼間だけの立ち入りが許され、自宅に戻った時に誰一人とも会わなかったことをきっかけとして、小高に帰ってこられた人が気軽に立ち寄れる場所として代表者の廣畑さんが「おだかぷらっとほーむ」を開設されました。2016年7月12日、避難指示が解除されましたが、地元に戻ってきた方は4%にも満たない状態です。人々が戻って来られたときに誰かがいる、人々の心に寄り添える場所として大きな役割を持つ「ぷらっとほーむおだか」を今年は支援したいと思います。みなさんのご支援が被災地の方々への直接的な支援と繋がります。

多くの方々のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

記

日時：5月2日(火)

経路(予定時刻)：

網野教会堂 8:30→峰山礼拝堂 10:30→大宮礼拝堂 13:00(昼食)

→岩滝礼拝堂 17:00→宮津教会堂 19:00